

平成23年度 学校経営方針

平成23年 4月
荒川区立原中学校長 刑部 之康

I 教育目標

平和と文化を愛し、民主的な社会の一員として、正しい判断力をもった人になることを願って、次の目標を設定する。

- 1 人を大切にする、心豊かな生徒の育成
- 2 すすんで考え、学ぶ生徒の育成
- 3 健康で、根気強い生徒の育成

II 教育活動の基本方針

- 1 母校に誇りをもち、ふるさと荒川そして日本を愛し、世界に目を向け、グローバルな活躍をすることを目標にできる生徒の育成
- 2 基礎基本の徹底と、すべての生徒の「学び」を保障する授業の実現
- 3 地域に愛され、地域とともに発展する学校
- 4 校内は「チーム原中」、地域保護者とは「原中ファミリー」

III めざす生徒像

- 1 自ら学ぶ意欲を持ち、仲間とともに学び合うことができる生徒
- 2 「学ぶ」ことをあきらめず、学ぶことの喜び、達成感を追求する生徒
- 3 人に優しく、自分に厳しくできる生徒(人情味がありけじめがつけられる)
- 4 身近な目標をたて、それを着実に実現し、将来の夢を描くことができる生徒
- 5 自分に自信を持ち、母校に誇りがもてる生徒

IV めざす教師像

- 1 教師自信が生徒にとって最大の教育環境だとの自覚ある教師
- 2 すべての生徒の「学び」を成立させる責任がもてる教師
- 3 できるまでやり遂げられる踏ん張りのきく教師
- 4 生徒とともに、同僚とともに学び続けられる教師
- 5 「チーム原中」としての共通項を尊重し、自分なりの個性ある実践ができる教師

V 教科・領域等の重点

1 学習指導

(1) 各教科

あきらめない学習態度を育み、基礎・基本の定着を徹底し、すべての生徒の「学び」を成立させる授業をめざす。

- ① 繰り返し学習、家庭学習の習慣づけと、原中検定の充実を図り、学ぶことの喜びと、達成感を味わわせる。
- ② 体験活動を多く取り入れ、活動的な学習を展開し、聞き合い、学び合いの授業を創造する。

- ③ 読書活動を広げ、問題解決学習に対応するために授業での図書館活用を推進する。
- ④ 教科等の提案研究授業を一人1回以上行う。
- ⑤ 原中シラバスに基づいた教育活動、指導と評価に取り組む。

(2) 道徳

道徳の時間を要として全教育活動を通じた道徳教育の充実を図り、生徒の豊かな人間性をはぐくむ。

- ① 道徳の時間を生徒と教師、生徒同士がよりよい人としての生き方を語り合う時間とする。
- ② 道徳の年間指導計画に基づき、全内容項目について道徳の時間の授業を行う。

(3) 総合的な学習の時間

課題を発見し、課題解決のための探求の方法を培い、積極的に表現することができる生徒を育成する。

- ① 既習事項を活用し、様々な調査、探求方法を体験させ、発表する機会を多くする。
- ② 各教科、道徳、特別活動と関連を図った本校の課題と実態に即して年間指導計画の見直しと実施をする。

2 生活指導・進路指導

(1) 生活指導

毅然とした指導、生徒の思いを受けとめる柔軟さという硬軟のバランスがとれた生活指導に努める。

待ちではなく、攻めの生活指導を継続する。

- ① 問題行動と「心の問題」の早期発見・早期対応と相談活動の充実、不登校対策の強化、特別な支援を必要とする生徒への指導の充実を図る。
- ② 生徒の活動場所に常に身を置き、教師と生徒の関わりを大切にする。
- ③ 基本的な生活習慣（特に「早寝早起き朝ご飯」の励行、時間のけじめ、礼儀）や規範意識の徹底を図り、集団生活の基本的なルールや時と場合に応じた適切な言動についての指導を強化する。
- ④ スクールカウンセラー、教育相談員の活用、関係諸機関との連携と情報の共有化を図った指導の実施。

(2) 進路指導

自己を知り、夢と希望を育み、自己肯定感と生き甲斐を持たせる進路指導を実践する。

- ① キャリア教育の年間計画の実施。
- ② 望ましい勤労観、職業観を体験活動を通して育む。
- ③ 生徒自らが自分の生き方と将来像を描ける進路学習の工夫。

3 学校運営

主幹、主任を中心として組織的な校務の遂行に務める

(1) 学年・学級経営

- ① 生徒一人一人が主役となり、他の生徒との関わりがもてる学年・学級経営を遂行する。
- ② 生徒の実態に即し全体で共通した指導、また特色ある学年・学級経営を推進する。
- ③ 生徒自身が主体的に環境の美化に努める指導を推進する。
- ④ 廊下掲示等の活用を進める。

(2) 校務分掌

- ① 一人一人が責任をもって分掌の職務を担当する
- ② 学年・分掌等の計画に従って早めに、そしてやり遂げる執念をもって適切な進行管理を行う。
- ③ 必要ならば状況に応じて計画の変更、または新しい計画を立てる柔軟さをもつ。

4 特別活動等

めざす生徒像の達成のために、3年間を見通した学校全体としての共通化した指導計画を作成し、実行するとともに、学年・学級の特色ある活動をも推進する。

(1) 学級活動

- ① 話し合い活動を充実させ、諸問題の解決を図る態度を育成する。
- ② 集団や社会の一員としての自覚をもたせる活動の充実を図る。

(2) 生徒会活動

- ① 生徒会活動を通して生徒のモラルを高め、自主自立の態度を培う。
- ② 「あいさつ」、「校内美化」、「ボランティア」等の活動を推進し、母校に誇りをもち地域に愛される生徒を育成する。

(3) 学校行事等

- ① 道徳教育との関連を重視し、達成感、成就感と豊かな心をはぐくむ体験活動を推進する。
- ② 生徒の評価（感想や意見などを含む）を取り入れ、改善の手がかりとする。

(4) 部活動

礼儀正しくたくましく、自分に自信がもてる生徒を育成するために部活動を重視する。

- ① 高い目標を掲げ、それを達成するために着実な計画と実践の積み重ねを遂行する。
- ② あいさつ、マナーについての指導を強め、小学生や他校生の模範となる生徒を育成する。
- ③ 顧問はできるだけ時間をつくり活動場所に行き、生徒とともに活動することをめざす。（最低限、始まりと終了時には必ず活動場所に行く）
- ④ 顧問不在の時の部活動は中止、または代理の教職員に依頼する。
- ⑤ 出欠確認の徹底を図る。
- ⑥ 対外試合・活動の予定、結果を校内外に広く知らせる。

(5) その他の取り組み

- ① 「おいしい給食の学校」をめざし、生徒の生活改善と健康のために食育を他の教育活動とも関連させて推進する。
- ② 人権作文コンテストへの参加を機会に生徒の人権意識を高める指導を推進する。
- ③ 歌唱指導は音楽担当だけでなく全校で取り組み「歌声が響く学校」をめざす。
- ④ 図書館活用の中で保育園、小学校などとの関わりを深める
- ⑤ 小学校への出前授業、クラブ指導を計画、推進する。
- ⑥ 海外校との交流を計画し、推進する。

5 研究・研修の充実

教員としての資質向上、授業力向上のために校内研修、授業研究、個人の研修に意欲的に取り組む。

- ① 校内研修は3つの分科会とし、実践的な研修を進め学校改善を推進する。
- ② 教師同士の授業力向上のために一人1回以上の提案授業を行う。
- ③ 直面する課題解決のため、またライフステージに応じた研修に計画的・積極的に取り組む。

VI その他

1 保護者・地域

- ① 保護者・地域の信頼（評判）を回復し、高めるために積極的に徹底した広宣活動を行う。（原中写真ニュース、校長室便り、日常的な地域との関わりを重視）
- ② ピンチをチャンスに変える意識を持ち、素早く対応する。
- ③ 全体の奉仕者としての社会的責任の自覚（サービスの厳正、サービス規律の確保）
- ④ どんな状況でも生徒、保護者、地域、外部の方に対して、誠実な態度、丁寧な応対を心がける。
- ⑤ 教職員、生徒ともにPTAや地域の行事に積極的に参加し、保護者・PTA・地域との連携を深め、生徒の指導に生かすとともに、学校への信頼を勝ち取る。

2 施設・設備

- ① 常に安全点検を行い、重大事故の防止に努める。
- ② 破損箇所への素早い対応、施設設備の改善への柔軟で積極的な対応に努める。

3 予算の計画的な執行

- ① 備品費は早めに執行し、年度内に必ず活用する。
- ② 一般需用費は各学期ごとに計画的に執行する。

4 会計等事故防止と決済

- ① 私費会計については、毎学期末に副校長に帳簿、通帳、領収書等関係書類を提出し監査を受ける。
- ② 公印の押印は原則として校長が行う。校長の出張等をよく見計らって、余裕をもって決済を受ける。銀行印は代印しない。

VII 学校パワーアップ事業の取り組み

1 学力向上マニフェスト

- ① 原中検定の充実
- ② 全教師の提案研究授業
- ③ 優れた実践に学ぶ

2 創造力あふれる教育の推進

- ① 夏季自然体験
- ② スキー卒業遠足

3 未来を拓く子供の育成

- ① 「原中写真ニュース」の発行
- ② 教育相談の充実（ハートフルサポート）
- ③ 海外校との交流